

私の黒部川扇状地研究

田 林 明

昨年2月に長年の念願であった、黒部川扇状地農村に関する本を出版することができた。昭和47年5月に修士論文研究のために黒部川扇状地の農家で聞き取りを始めてから、20年近くの歳月がすぎたわけである。もっとも、私自身黒部川扇状地に隣接する魚津市の出身であるし、小学校2年生まで黒部川扇状地の一角に住んでいたこともあって、この扇状地との付き合いはさらに長い。

黒部川扇状地研究を続けることができた第1の理由は、修士論文研究が当初のねらいどおりいかなかったことであろう。研究課題であつた農業水利に関する肝心の調査がうまくいかず、圃場整備事業の進行や兼業化、農村景観の変化、農村の社会構造、自立農業経営など、むしろ農業水利に付随する資料を多く集めたことである。実はこのむだの部分を、その後それぞれ調査し、まとめたのが今回の本の元になったのである。

研究を継続できた第2の理由は、実家が黒部川扇状地の近くで、帰省のたびに気軽に調査を行うことができたことである。第3には昭和51年に地元で地理学や歴史学に興味をもつ人々を中心になって入善町に黒部川扇状地研究所が組織され、年に何回かは研究会や共同調査のさそいをうけるようになったことである。第4はしだいに現地を知合いが多くなり、調査がしやすくなったことである。

さらに、黒部川扇状地出身の籠瀬良明先生も述

べておられるように、この扇状地は、その領域が適当な大きさでまとまっており、しかもその自然・人文条件が相対的に単純で明確であり、個人の力で地域研究を行うのに格好なフィールドであったことである。大学院の野外実習や演習で教わったこと、他人の研究で興味を覚えたことを、試しに自分でもやってみるには、まことに都合がよかった。小さな地域であっても、調査すればするほど多くの課題がみつかった。

私のこれまでやってきた調査・研究は、黒部川扇状地を出発点としているものが多い。農業水利研究も稲作研究も農家の兼業化についての研究も、黒部川扇状地から北陸地方、そして全国へと視野を広げていった。黒部川扇状地とは直接関連のないテーマで、各地の農村や山村を調査したことも少なくないが、無意識に黒部川扇状地農村と比較していたり、研究方法を応用していたことが多い。もう10年以上前になるが、初めてカナダの農村で調査した際に非常に愉快だったのは、黒部川扇状地でのやりかたで、結構うまくいったことである。このようなことから、私は黒部川扇状地を自分の研究のための実験室と考えている。そして、地理学研究者なら、調査しやすく、費用もかからず、義務もなく自由なテーマで研究できるこのようなフィールドを実験室としてもっているのも悪くはないと思っている。